

1	課程	工業実務専門・商業実務専門 社会福祉専門	5	科目名	キリスト教学 I	
2	学科	建築・ホテル観光・医療秘書・健康スポーツ・こども保育	6	科目番号	1	
3	授業時数	32時間	7	期	通期	
4	開講学年	1年	8	選択・必修	必修	
10	担当教員	氏名	本堀秀一・長澤牧人・金聖孝	9	授業形態	講義
		資格	—		所属	キリスト教会
		実務経験	キリスト教牧師 10年以上			
11	教科書	新共同訳聖書				
12	関連資格・検定等	—				
13	科目の概要	現代社会の諸課題を取り扱いつつ、聖書を通して生命の尊さ、生きる意味、多様なものごとの捉え方を学ぶ。				
14	科目の到達目標	①積極的:キリスト教の基本原理が生きる意味と力を与えるものであることを知る。 ②消極的:キリスト教の教理を教え込み、生徒を入信させるためのものではない。				
15	科目の必須条件	成績は、出席率、態度、学習意欲、平常の提出課題、期末レポート等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成績評価および評価基準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション 宗教について			
		②	YMCAとキリスト教について			
		③	キリスト教の歴史概観			
		④	イエスキリストの伝説			
		⑤	キリスト教にまつわる物語①			
		⑥	キリスト教にまつわる物語②			
		⑦	教会訪問			
		⑧	教会訪問			
		⑨	愛について			
		⑩	平和について			
		⑪	命について			
		⑫	イースターについて			
		⑬	クリスマスについて			
		⑭	熊本バンドについて			
		⑮	教会訪問			
		⑯	教会訪問			
18	参考書					

1	課程	工業実務専門・商業実務専門 社会福祉専門	5	科目名	キリスト教学Ⅱ		
2	学科	全学科	6	科目番号			
3	授業時数	32時間(半期16時間)	7	期	前期・後期		
4	開講学年	2年	8	選択・必修	必修		
10	担当教員	氏名	本堀秀一・長澤牧人・金聖孝		9	授業形態	講義
		資格				所属	キリスト教会
		実務経験	キリスト教牧師 10年以上				
11	教科書	新共同訳聖書					
12	関連資格・検定等	—					
13	科目の概要	現代社会の諸課題を取り扱いつつ、聖書を通して生命の尊さ、生きる意味、多様なものごとの捉え方を学ぶ。					
14	科目の到達目標	①積極的:キリスト教の基本原理が生きる意味と力を与えるものであることを知る。 ②消極的:キリスト教の教理を教え込み、生徒を入信させるためのものではない。					
15	科目の必須条件	成績は、出席率、態度、学習意欲、平常の提出課題、期末レポート等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。					
16	成績評価および評価基準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講義のスケジュール	①	オリエンテーション キリスト教について				
		②	YMCAとキリスト教について				
		③	社会問題とキリスト教①				
		④	社会問題とキリスト教②				
		⑤	旧約聖書				
		⑥	新約聖書				
		⑦	教会訪問				
		⑧					
		⑨	熊本YMCAの使命① 共に生きる社会 熊本YMCAの使命② 地球環境の保全				
		⑩	熊本YMCAの使命③ 生涯学習の推進 熊本YMCAの使命④ ウェルネス活動				
		⑪	熊本YMCAの使命⑤ ボランティア活動 熊本YMCAの使命⑥ 平和な世界				
		⑫	イースターについて				
		⑬	クリスマスについて				
		⑭	熊本バンドについて				
		⑮	教会訪問				
		⑯					
18	参考書						

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	キャリアデザイン論 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	3	
3	授 業 時 数	16時間	7	期	前期・後期	
4	開 講 学 年	1年前期	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	藤井 祥子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	幼稚園教諭1種免許・サービス接遇検定1級 日本語し言葉協会認定講師・秘書検定1級 日本サービスマナー協会認定マナー講師		所 属	
		実 務 経 験	専門学校講師10年以上			
11	教 科 書	実社会で求められるビジネスマナー 井上 洋子 著 専門教育出版				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	なし				
13	科 目 の 概 要	マナーは相手を尊重し、相手の立場に立って行動することが基本である。この授業では、スポーツ施設、医療、介護などの場におけるマナーの必要性を認識すると共に、仕事人、社会人として求められる基本的なマナーの習得を目標に、講義と、ロールプレイなどの実技を中心とした実践的な授業を展開する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	職場での礼儀作法を身につけたスタッフとして迎えられ、円滑に業務を遂行するために必要な基本的マナーを習得する。 また、実習や就職活動に際し、マナーに関して自信をもって臨める自分づくりを目的とする。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、授業態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。 (出席率、授業態度、学習意欲、提出課題 50点+定期試験 50点 計100点) 授業態度とは、授業参加の状態(発表、ロールプレイ、グループワーク、板書写し、課題提出等)と授業不参加の状態(携帯電話・スマートフォンの使用、私語、居眠り他)のこと				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	接遇マナーの重要性と心構え・職場のマナーと人間関係・仕事の基本と仕事の進め方・キャリアプラン			
		②	話し方技法 I 話し方とコミュニケーション			
		③	話し方技法 II 社会人のことば遣い			
		④	電話応対技法 I 電話の受け方のマナーと実技			
		⑤	電話応対技法 II 電話のかけ方のマナーと実技			
		⑥	来客対応のマナー・訪問のマナー			
		⑦	ビジネス文書 社内文書・社外文書			
		⑧	冠婚葬祭のマナー			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	キャリアデザイン論Ⅱ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	4	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	藤井 様子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	幼稚園教諭1種免許・サービス接遇検定1級 日本語し言葉協会認定講師・秘書検定1級 日本サービスマナー協会認定マナー講師		所 属	
		実 務 経 験	専門学校講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	キャリア形成における気づきを促す、コミュニケーションスキルとリーダーシップスキルの理論と実技、自己分析やディスカッションなど、各種ワークで現場に即した実践的な授業を展開する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	働く意味を考え、主体的に自身のキャリアをデザインしていく力を養う事を目的とする。また、利用者や利用者家族、職員スタッフ等と良い人間関係を築き、働きやすい職場環境をつくるためのコミュニケーションスキルと現場で求められるリーダーシップを身につける。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション 人生設計とキャリアデザイン、自分の職業観について			
		②	自己理解度チェック・ライフラインシートの作成			
		③	リーダーシップに関する理論と考察の変遷(近代から現代)			
		④	コミュニケーションとは 自分のコミュニケーションポジション			
		⑤	自己理解Ⅰ 自己分析(自分の心と行動の特性を知る)			
		⑥	自己理解Ⅱ 自己開示とフィードバック(他者から見た自分)・私とは(文章完成法)			
		⑦	他者理解 価値観の相互理解			
		⑧	傾聴カトレーニング 受身的な聴き方・積極的な聴き方			
		⑨	モチベーションカトレーニング 自他へのプラスストローク			
		⑩	ディスカッションカトレーニングⅠ ディスカッションの実際 チームワーク			
		⑪	ディスカッションカトレーニングⅡ ディスカッションの実際 コンセンサス			
		⑫	伝えるカトレーニングⅠ 効果的なアイメッセージ法			
		⑬	伝えるカトレーニングⅡ 適切な自己表現、アサーショントレーニング			
		⑭	問題解決カトレーニング デュイ問題解決6段階法 ・ デイバート問題解決6段階法			
		⑮	まとめ 後期授業に関するレポートと発表			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	キャリアデザイン論Ⅲ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	5	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	上村 眞智子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	国家資格キャリアコンサルタント 国家資格2級キャリアコンサルタント技能士 アンガーマネジメントコンサルタント ダイバーシティコミュニケーションインストラクター 教員免許(英語)高校2種、中学1種		所 属	キャリアデザイン工房有限会社 オフィスUEMURA
		実 務 経 験	専門学校講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	自らのキャリアを如何にデザインして行けば、希望の職業に就くことが出来るのかを、以下のポイントを押さえながら学ぶ。 1. 働くことの意義・意味の理解 2. 自己分析、自己理解、仕事理解 3. 応募書類の持つ意味と作製ポイント解説及び作成 4. 面接の受け方				
14	科 目 の 到 達 目 標	自己理解、職業理解が進み、職業人として社会を作る側の人間になることへの意識付けが出来た人間形成を目標とする。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: karoujite認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	働くこととは、仕事とは、働く意味・意義の理解			
		②	企業が求める人材とは、社会人基礎力			
		③	企業研究の意味、必要性			
		④	自分のことを知る: 自己分析、自己理解 ①			
		⑤	自分のことを知る: 自己分析、自己理解 ②			
		⑥	良い自己PR書の書き方 ①			
		⑦	良い自己PR書の書き方 ②			
		⑧	良い志望動機の書き方 ①			
		⑨	良い志望動機の書き方 ②			
		⑩	応募書類の作成 ① 履歴書の意味について			
		⑪	応募書類の作成 ② 履歴書作成			
		⑫	面接の意義・意味			
		⑬	模擬面接指導 ①			
		⑭	模擬面接指導 ②			
		⑮	まとめ			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	英語コミュニケーション	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	6	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	Zurfluh Beat Josef	9	授 業 形 態	演習
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	英会話講師5年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	グローバル社会の中で、スポーツクラブでの外国人への対応力が求められる。また、外国人自身が高齢化し、健康づくりの対象となった時の対応も迫られている。その為の英語コミュニケーションである。Ⅲでは、スポーツクラブでの対応として、受付や指導時・緊急時の会話にもつなげ、スポーツ・健康分野での実用英会話の基礎をマスターしたい。				
14	科 目 の 到 達 目 標	①英会話を好きになる。 ②外国人と話したいと思う。 ③挨拶など英会話の基礎となる部分を習得する。 ④トレーナーに必要な身体部位・姿勢・動作等の表現を習得する。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション、授業の進め方、自己紹介			
		②	自己紹介とクラスルームイングリッシュ(復習、練習、応用)			
		③	質問の仕方・身体の部位と健康の状態について(導入と練習)			
		④	質問の仕方・身体の部位と健康の状態について(復習、練習と応用)			
		⑤	各々のスポーツに関する語彙(導入、練習)			
		⑥	各々のスポーツに関する語彙(復習、練習、応用)			
		⑦	緊急時の対応など(導入、練習)			
		⑧	緊急時の対応など(応用)			
		⑨	これまでの総復習			
		⑩	口頭試験についての説明と対策を含めたまとめ・定期テスト			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	情報処理 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	7	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	岩切 和子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	MOS Word2003 Expert,MOS Excel2003 Expert,日商ワープロ検定2級		所 属	
		実 務 経 験	自治体主催パソコン講座非常勤講師、小学校総合学習パソコン担当非常勤講師、専門学校非常勤講師30年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	日本語ワープロ検定3級				
13	科 目 の 概 要	テキストやプリントを教材にして基礎的な説明を行う ワードの便利で能率的な使い方を習得させる 検定問題のテキストやプリントで検定対策を行う				
14	科 目 の 到 達 目 標	ブラインドタッチをマスターし、入力スピードをあげる 10分間で300文字 検定への合格を目指す(3級以上) ビジネス文書などの作成が自在にこなせるように、ワードの機能をマスターする				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	パソコンの起動から終了までの操作 保存のやり方 文字の入力(基本)			
		②	ビジネス文書の基本 簡単なレイアウトまで 検定問題の練習			
		③	表作成を伴うビジネス文書 検定問題の練習			
		④	検定問題練習(個人のレベルに応じた級)とWordの機能を覚えるための練習問題1			
		⑤	検定問題練習(個人のレベルに応じた級)とWordの機能を覚えるための練習問題2			
		⑥	検定問題練習(個人のレベルに応じた級)とWordの機能を覚えるための練習問題3			
		⑦	検定問題練習(個人のレベルに応じた級)とWordの機能を覚えるための練習問題4			
		⑧	検定問題練習(個人のレベルに応じた級)とWordの機能を覚えるための練習問題5			
		⑨	検定問題練習(個人のレベルに応じた級)とWordの機能を覚えるための練習問題6			
		⑩	検定問題練習(個人のレベルに応じた級)とWordの機能を覚えるための練習問題7			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	情報処理 II	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	8	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	岩切 和子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	MOS Word2003 Expert,MOS Excel2003 Expert,日商ワープロ検定2級		所 属	
		実 務 経 験	実務経験10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	表計算検定3級				
13	科 目 の 概 要	テキストやプリントを教材にして基礎的な説明を行う 便利な関数の使い方を毎回練習する 検定問題のプリントで検定対策を行う				
14	科 目 の 到 達 目 標	ビジネスに必要な計算が自在にこなせるように、エクセルの機能をマスターする 能率的な入力方法、繰り返しの練習で検定への合格(3級以上)を目指す				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	ワークシートへの入力 合計・平均・最大・最小 4級検定問題練習			
		②	四則演算 端数処理(切り上げ・切捨て・四捨五入・整数未満切捨て)表示形式変更			
		③	相対参照・絶対参照 順位づけ 並べ替え 4級検定問題練習			
		④	比較演算子 判断文IF 複数のIF関数 3級 検定問題練習			
		⑤	グラフの練習 3級 検定問題練習			
		⑥	3級 検定問題練習 (進度の早い生徒は2級にチャレンジさせる)			
		⑦	3級 検定問題練習 2級出題(VLOOKUP・AND・OR・グラフ作成など)			
		⑧	検定問題練習 (個人のレベルによる)			
		⑨	検定問題練習 (個人のレベルによる)			
		⑩	検定問題練習 (個人のレベルによる)			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	情報処理Ⅲ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	9	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	横山 純一郎	9	授 業 形 態	演習
		資 格	JATI-ATI、サッカーB級コーチ、地域スポーツC級指導員、介護予防運動指導士、DAH-CTPC		所 属	
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上 専門学校講師9年			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	DX・society5.0の現代の広告を学ぶ。マーケティングとSNSマーケティングを比較する。SNSマーケティングの実際まで行う。				
14	科 目 の 到 達 目 標	SNSをマーケティングの道具と捉え、発信・関りからアルゴリズムを学び、フォロワーを増やし、目的を達成させる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション・マーケティングと歴史			
		②	マーケティングの基本			
		③	SNSマーケティングの基本			
		④	SNSマーケティング戦略			
		⑤	SNSでのコミュニケーション			
		⑥	シェアされるコンテンツの条件			
		⑦	SNSから販売までつなげる秘訣			
		⑧	SNS運用の基本			
		⑨	SNS分析			
		⑩	評価・分析・今後			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書	SNSマーケティング				

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	情報処理Ⅳ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	10	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	講義
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES			所 属
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	指導者に求められる情報処理能力として、基礎情報処理およびバイオメカニクスの基礎をもとに、各種運動・スポーツ動作の計測・分析方法について概観する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	1) スポーツ技能の習得や指導をする際、どのような視点が必要か考察できる。 2) 運動やスポーツのパフォーマンス計測の実際とデータの活用法を理解できる。 3) 文献を調べ、計測したデータと比較し、分析することができる。 4) データを分析して得た内容をわかりやすく発表できる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	指導者と情報処理能力			
		②	データの種類			
		③	データ収集①			
		④	データ収集②			
		⑤	データ処理①			
		⑥	データ処理②			
		⑦	データ分析①			
		⑧	データ分析②			
		⑨	データの発表方法			
		⑩	発表(テスト)			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	就職対策 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	11	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	上村 眞智子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	国家資格キャリアコンサルタント 国家資格2級キャリアコンサルタント技能士 アンガーマネジメントコンサルタント ダイバーシティコミュニケーションインストラクター 教員免許(英語)高校2種、中学1種		所 属	キャリアデザイン工房有限会社 オフィスUEMURA
		実 務 経 験	専門学校講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	1年生後期で、主に就職を目指す業種の理解と就職活動を始める前の自己理解や他者理解を行い、本格的な就職活動に向けて自らの職業観や適性について学びを深める。				
14	科 目 の 到 達 目 標					
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	自己理解			
		③	他者理解			
		④	業種研究1			
		⑤	業種研究2			
		⑥	OB講和1			
		⑦	OB講和2			
		⑧	OB講和3			
		⑨	OB講和4			
		⑩	コース分けについて			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課	程	社会福祉課程	5	科	目	名	就職対策Ⅱ
2	学	科	健康スポーツ科	6	科	目	番	号
3	授	業	時	数	7	期		前期
4	開	講	学	年	8	選	択	・
								必修
10	担	当	氏	名	末松	大	喜	9
			授	業	形	態	講	義
			資	格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES			所
	実	務	経	験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教	科	書					
12	関	連	資	格	・	検	定	等
13	科	目	の	概	要			
		1年生後期で選択したコースに従い、自ら選んだ業界を調べたり、企業訪問にて生の情報を得る。就職活動に向けて自らの職業観や適性について学びを深める。						
14	科	目	の	到	達			
		目標						
		就職活動に向けて、様々な情報から就職したい企業を探し、自主的に採用試験への準備ができるようになる。						
15	科	目	の	必	須			
		条件						
		成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。						
16	成	績	評	価	お			
		よ						
		び						
		評						
		価						
		基						
		準						
		準						
		備						
		①						
		オリエンテーション						
		②						
		就職活動の方法1						
		③						
		就職活動の方法2						
		④						
		就職活動準備1						
		⑤						
		就職活動準備2						
		⑥						
		就職活動準備3						
		⑦						
		就職活動準備4						
		⑧						
		就職活動準備5						
		⑨						
		就職活動準備6						
		⑩						
		まとめ、社会人生活に向けて						
		⑪						
		⑫						
		⑬						
		⑭						
		⑮						
18	参	考	書					

1	課 程	工業実務専門・商業実務専門 社会福祉専門	5	科 目 名	教養講座 I	
2	学 科	建築・ホテル観光・医療秘書・健康スポーツ・こども保育	6	科 目 番 号		
3	授 業 時 数		7	期	通期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	各学科担当職員	9	授 業 形 態	講義
		資 格	—		所 属	熊本YMCA
		実 務 経 験	—			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	専門分野の知識と併せて、ボランティアなどを通して多様な分野の知識を幅広く身につけることを目的に講義、実習を行います。				
14	科 目 の 到 達 目 標	講義や体験をとおして専門学生として知っておくべき教養や社会人としての常識を幅広く身につけることが到達目標です。				
15	科 目 の 必 須 条 件	・出席状況:60% ・授業態度(私語、居眠り、物忘れ等):30% ・課題提出等:10%				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講義の スケジュール	1	オリエンテーション			
		2	ほめ育			
		3	ほめ育			
		4	ほめ育			
		5	ほめ育			
		6	ほめ育			
		7	ほめ育			
		8	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		9	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		10	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		11	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		12	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		13	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		14	共に生きる社会(前進祭・インターナショナルチャリティーラン・ピンクシャツデー)			
		15	共に生きる社会(前進祭・インターナショナルチャリティーラン・ピンクシャツデー)			
		16	共に生きる社会(広島ピースセミナー等の報告会)			
		17	地球環境・自然との共生(キャンプ実習)			
		18	地球環境・自然との共生(キャンプ実習)			
		19	多文化理解と交流(前進祭)			
		20	募金活動の取組み(前進祭・インターナショナルチャリティーラン・年末募金)			
		21	スポーツ交流(スポーツデイ)			

	22	ビジネスマナーの実践(暑中見舞い・年賀状の作成)
	23	ビジネスマナーの実践(暑中見舞い・年賀状の作成)
	24	卒業生講話
	25	卒業生講話
	26	業界人講話
	27	コミュニケーションスキルアップ(学年交流)
	28	チームワークの実践(学年交流)
	29	教会訪問
	30	まとめ・振り返り
18	参	考
	書	

1	課 程	工業実務専門・商業実務専門 社会福祉専門	5	科 目 名	教養講座 I	
2	学 科	建築・ホテル観光・医療秘書・健康スポーツ・こども保育	6	科 目 番 号		
3	授 業 時 数		7	期	通期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	各学科担当職員	9	授 業 形 態	講義
		資 格	—		所 属	熊本YMCA
		実 務 経 験	—			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	専門分野の知識と併せて、ボランティアなどを通して多様な分野の知識を幅広く身につけることを目的に講義、実習を行います。				
14	科 目 の 到 達 目 標	講義や体験をとおして専門学生として知っておくべき教養や社会人としての常識を幅広く身につけることが到達目標です。				
15	科 目 の 必 須 条 件	・出席状況:60% ・授業態度(私語、居眠り、物忘れ等):30% ・課題提出等:10%				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講義の スケジュール	1	オリエンテーション			
		2	ほめ育			
		3	ほめ育			
		4	ほめ育			
		5	ほめ育			
		6	ほめ育			
		7	ほめ育			
		8	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		9	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		10	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		11	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		12	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		13	社会の仕組みを知るセミナー(労働法を知る・性の多様性・消費者トラブル・感染症の予防・年金・薬物の危険性)			
		14	共に生きる社会(前進祭・インターナショナルチャリティーラン・ピンクシャツデー)			
		15	共に生きる社会(前進祭・インターナショナルチャリティーラン・ピンクシャツデー)			
		16	共に生きる社会(広島ピースセミナー等の報告会)			
		17	地球環境・自然との共生(キャンプ実習)			
		18	地球環境・自然との共生(キャンプ実習)			
		19	多文化理解と交流(前進祭)			
		20	募金活動の取組み(前進祭・インターナショナルチャリティーラン・年末募金)			
		21	スポーツ交流(スポーツデイ)			

	22	ビジネスマナーの実践(暑中見舞い・年賀状の作成)
	23	ビジネスマナーの実践(暑中見舞い・年賀状の作成)
	24	卒業生講話
	25	卒業生講話
	26	業界人講話
	27	コミュニケーションスキルアップ(学年交流)
	28	チームワークの実践(学年交流)
	29	教会訪問
	30	まとめ・振り返り
18	参	考
	書	

1	課	程	社会福祉課程	5	科	目	名	ウエルネス概論			
2	学	科	健康スポーツ科	6	科	目	番	号			
3	授	業	時	数	7	期		前期			
4	開	講	学	年	8	選	択	・			
								必修			
10	担	当	氏	名	末	松	大	喜			
			資	格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES						
			実	務	経	験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上				
9	授	業	形	態	講義						
					所	属					
11	教	科	書	(公)健康・体力づくり事業財団「健康運動実践指導者養成用テキスト」							
12	関	連	資	格	・	検	定	等			
								健康運動実践指導者、NSCA-CPT			
13	科	目	の	概	要						
					ウエルネスとは多面的な健康観であり、心身の健康だけでなく社会的健康も含まれる。ウエルネスとは何かを考え、実践できるように促す。						
14	科	目	の	到	達						
					目標						
					ウエルネスや健康についての科学的、実践的な知識を記述できるようになる。						
15	科	目	の	必	須						
					条件						
					成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。						
16	成	績	評	価	お						
					よ						
					び						
					評						
					価						
					基						
					準						
					成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: karoujite認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)						
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル		
										①	オリエンテーション
										②	健康・体力とは
										③	ウエルネスについて 歴史を調べる
										④	健康とスポーツ
										⑤	健康問題について
										⑥	ライフスキルの教育について
										⑦	健康日本21について
										⑧	高齢社会と運動について
										⑨	総合型地域スポーツクラブ
										⑩	欧米諸国にみるスポーツクラブ
										⑪	健康運動(有酸素運動)について
										⑫	健康運動(筋力トレーニング)について
										⑬	スポーツ規範について
										⑭	オリンピック・パラリンピックについて
⑮	まとめ										
18	参	考	書	NSCA/パーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版							

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	機能解剖とバイオメカニクス		
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	16		
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期		
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修		
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	講義	
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES			所 属	
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上				
11	教 科 書						
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等						
13	科 目 の 概 要	本科目では、解剖学的見地から、身体運動に関わる靭帯構造の基礎について学習する。また、基本的身体運動における力学的要因について学習し、身体構造と運動に関するメカニズムについての理解を深め、様々な運動指導場面に応用することのできる基礎力を身につける。					
14	科 目 の 到 達 目 標	骨、関節、骨格筋等、運動に関する人体の構造の基礎について理解し、記述することができる。様々な身体運動に関する力学的要因について理解し、記述することができる。					
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講 義 の スケジュール	①	骨の構造				
		②	骨格と臓器、神経				
		③	関節の種類と関節運動				
		④	骨格筋の形態と種類				
		⑤	骨格筋の力学的特徴				
		⑥	単関節・多関節運動				
		⑦	上肢・下肢の運動				
		⑧	身体運動の力学的要因(運動量・力積)				
		⑨	身体運動の力学的要因(仕事・エネルギー)				
		⑩	身体運動の力学的要因(パワー発揮・エネルギー伝達)				
		⑪	身体運動の力学的要因(流体力)				
		⑫	ウォーキング・ジョギングのバイオメカニクス				
		⑬	水泳・水中運動のバイオメカニクス				
		⑭	様々な運動のバイオメカニクス				
		⑮	総合討議および総括				
18	参 考 書	NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	運動生理学	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	17	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	講義
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書	(公)健康・体力づくり事業財団「健康運動実践指導者養成用テキスト」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	運動生理学は、生物の運動にまつわる現象を身体内部の生理的な機能あるいは構造的な変化の面から捉える。本科目では、解剖学・生化学の領域も踏まえつつ運動生理学の基本的内容を学び、運動の指導者に必要な教養および指導場面に応用できる基礎力を身につける。				
14	科 目 の 到 達 目 標	運動時の筋・神経・骨格・心肺系や、生体エネルギー機構、有酸素性および無酸素性トレーニングへの適応について理解し、記述することができる。 運動およびトレーニングにおける、生理学的な機能や効果の測定評価の方法を理解し、記述することができる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	運動の発現			
		②	筋収縮とエネルギー供給系			
		③	筋線維の種類と特徴			
		④	神経系の役割			
		⑤	筋の収縮様式と筋力			
		⑥	運動と循環			
		⑦	運動と呼吸			
		⑧	運動とホルモン			
		⑨	筋疲労の要因			
		⑩	運動と体温調節			
		⑪	加齢に伴う身体機能の変化			
		⑫	身体組成と肥満			
		⑬	運動と生活習慣病			
		⑭	様々な運動の生理的効果			
		⑮	総合討議および総括			
18	参 考 書	NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版				

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	体力測定・評価法	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	18	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	講義
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者				
13	科 目 の 概 要	本科目は、人が健康で活力ある生活を送るための身体的能力や運動の基礎能力を知る客観的尺度について理解し、その手法を習得することを目的とする。				
14	科 目 の 到 達 目 標	形態や身体組成の測定法等について理解し実践することができる。 測定したデータに対して、客観的な検証を行うことができる。 上記の手法について理解し、記述することができる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	体力と運動能力			
		③	体力測定の条件と評価			
		④	無酸素性能力・有酸素性能力の測定			
		⑤	最大酸素摂取量と無酸素性閾値			
		⑥	新体カテストの測定項目と評価法			
		⑦	新体カテストの実習1			
		⑧	新体カテストの実習2			
		⑨	高齢者の体力の測定と評価			
		⑩	体組成の測定と評価1			
		⑪	体組成の測定と評価2			
		⑫	健康づくりのための運動指針			
		⑬	測定結果の解析および評価1			
		⑭	測定結果の解析および評価2			
		⑮	総括			
18	参 考 書	NSCA/パーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版				

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康スポーツ心理学	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	19	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	横山 純一郎	9	授 業 形 態	講義
		資 格	JATI-ATI、サッカーB級コーチ、地域スポーツC級指導員		所 属	TRASTA JAPAN
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上 専門学校講師10年以上			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト、NSCA/パーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	スポーツ競技におけるパフォーマンス発揮に関わる心理的要因を取り上げる。また、心理と身体活動、運動の開始、継続、効果に関する健康運動心理学内容についても講義する。行動変容について学びを深める。				
14	科 目 の 到 達 目 標	競技スポーツのパフォーマンス向上や健康・体力づくりに関わる様々な心理的要因及び心理過程を理解し、具体的な方策を記述できる。また、健康運動心理学ではトランスセオレティカルモデルを基に信頼関係を作り、目標設定をし、動機づけを行い、変容ステージの向上に努めカウンセリングが出来るようになる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	スポーツ心理学とは？			
		②	逆U字曲線仮説: 脳の覚醒水準とパフォーマンスの関係			
		③	競技不安とパフォーマンス			
		④	不安とリラクゼーション			
		⑤	メンタルトレーニング			
		⑥	認知(ステレオタイプ・ハロー効果・ピグマリオン効果・社会的手抜きなど)			
		⑦	心理的スキル			
		⑧	行動変容理論1			
		⑨	行動変容理論2			
		⑩	ストレスとマネジメント			
		⑪	運動の健康行動			
		⑫	行動変容を意図したカウンセリングの実際1			
		⑬	行動変容を意図したカウンセリングの実際2			
		⑭	行動変容を意図したカウンセリングの実際3			
		⑮	行動変容を意図したカウンセリングの実際4			
18	参 考 書					

1	課	程	社会福祉課程	5	科	目	名	スポーツ経営管理学		
2	学	科	健康スポーツ科	6	科	目	番	号		
3	授	業	時	数	7	期		前期		
4	開	講	学	年	8	選	択	・		
								必修		
10	担	当	氏	名	横山	純	一	郎		
			資	格	JATI-ATI、サッカーB級コーチ、地域スポーツC級指導員					
			実	務	経	験	スポーツインストラクター13年 専門学校講師7年			
9	授	業	形	態	講義					
					所	属				
11	教	科	書	健康運動実践指導者養成用テキスト、NSCA/パーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版						
12	関	連	資	格	・	検	定	等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT	
13	科	目	の	概	要 スポーツ社会学のコンプライアンスの理解や権利や法律を学び、事例に基づいた判例について学ぶ。また、マーケティングの観点からスポーツを取り巻く産業を理解し、スポーツクラブの経営や運営について学ぶ。地域総合型スポーツクラブやマイクロジムなどの経営について調べ学習を行う。					
14	科	目	の	到	達					
					目					
					標 スポーツを取り巻く産業や法令に基づき、スポーツクラブを経営し、運営できるようにするために、現代の社会を理解し、マーケティングを行い、自ら企画立案することができる。					
15	科	目	の	必	須					
					条					
					件 成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。					
16	成	績	評	価	お					
					よ					
					び					
					評					
					価					
					基					
					準					
					成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: ちょうど認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	①	オリエンテーション スポーツ社会学基礎
									②	コンプライアンスについて
									③	スポーツが裁判になった例
									④	スポーツにおける経営学とは。また、スポーツマーケティングについて
									⑤	スポーツ消費市場と消費行動
									⑥	スポーツ経営と戦略
									⑦	スポーツスポンサーシップ
									⑧	スポーツ集団・組織のマネジメント
									⑨	サービスマーケティングにおけるレジャースポーツ産業とは
									⑩	顧客満足(CS)と従業員満足
									⑪	サービスの本質とは
									⑫	経営分析
									⑬	会員継続マネジメント
									⑭	地域総合型スポーツクラブ
									⑮	現代のスポーツクラブ・スポーツジムについて調べる
18	参	考	書							

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康栄養学	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	21	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	原 田 香	9	授 業 形 態	講義
		資 格	管理栄養士		所 属	尚綱大学短期大学部 食物栄養学科
		実 務 経 験	栄養学講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT、JATIトレーニング指導者				
13	科 目 の 概 要	栄養の基礎を学び、健康について学ぶ。また、生活習慣病と食生活との関連を学び実際の指導で使えるようにする。栄養とスポーツとの関連を学びつつ、幅広く健康に寄与する食生活について理解を深める。				
14	科 目 の 到 達 目 標	栄養と健康との関連を概観し、自分もしくは、クライアントのあった食物を選択する能力を身につけ、個人にとっての望ましい食べ方が何なのかのかわかり、指導ができるようになる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション、栄養とは			
		②	栄養に関する基礎知識Ⅰ：糖質			
		③	栄養に関する基礎知識Ⅱ：たんぱく質			
		④	栄養に関する基礎知識Ⅲ：脂質			
		⑤	栄養に関する基礎知識Ⅳ：ビタミン			
		⑥	栄養に関する基礎知識Ⅴ：ミネラル			
		⑦	食事摂取基準と各国のバランスガイド			
		⑧	ライフステージ別の食事			
		⑨	生活習慣病の原因となる食事の理解			
		⑩	高齢者の食事			
		⑪	スポーツ選手の食事Ⅰ（基礎編）			
		⑫	スポーツ選手の食事Ⅱ（実用編）			
		⑬	スポーツ実施時の栄養および水分補給			
		⑭	サプリメントとドーピング防止			
		⑮	まとめ			
18	参 考 書	(公)健康・体力づくり事業財団「健康運動実践指導者養成用テキスト」 NSCA-CPTテキスト 第7章 パーソナルトレーニングにおける栄養				

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	野外教育演習	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	22	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	木村 成寿	9	授 業 形 態	講義
		資 格	公益社団法人 日本キャンプ協会 キャンプディレクター1級		所 属	公益財団法人熊本YMCA
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上 キャンプインストラクター10年以上			
11	教 科 書	キャンプ指導者入門				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	キャンプインストラクター				
13	科 目 の 概 要	日本キャンプ協会キャンプインストラクター養成カリキュラムに基づき、理論と技術の習得はもちろん、指導者としての更なるステップアップを目指す。				
14	科 目 の 到 達 目 標	キャンプインストラクターとして、実際に指導できるレベルを目指す。また、YMCAのキャンプスタンダードを合わせて学ぶ事で、日本で初めて教育キャンプを行ったYMCAのキャンプリーダーとして活躍できるようにする。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	キャンプの定義・歴史(キャンプの目的・意義、ルールとマナー、環境養育)			
		②	指導者・リーダーの役割(キャンプの組織・種類、キャンプインストラクターの役割、キャンプにおけるカウンセリング、指導者のためのコミュニケーションスキル、キャンパーの観察と記録)			
		③	子どもの発育発達と対象理解(人間と自然、人間の理解、自然の理解)			
		④	キャンプの安全(リスクマネジメント、事故事例に学ぶ)			
		⑤	ゲームの指導(参加者体験)			
		⑥	キャンプの企画			
		⑦	キャンプの運営・評価			
		⑧	キャンプの企画・運営・評価(まとめ)			
		⑨	カウンセリング(ケーススタディ・ロールプレイ)			
		⑩	キャンプ指導演習①キャンプ準備			
		⑪	キャンプ指導演習②野外・屋内レクリエーション			
		⑫	キャンプ指導演習③ロープワーク			
		⑬	キャンプ指導演習④テント設営			
		⑭	キャンプ指導演習⑤野外炊飯			
		⑮	まとめ			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	運動障害の予防と救急処置	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	23	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	井本 光次郎	9	授 業 形 態	講義
		資 格	医師免許		所 属	熊本赤十字病院
		実 務 経 験	医師10年以上			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	整形外科的疾患や障がいをも有するクライアントとリハビリテーションを学び、現場で生きる知識を身につける。また、緊急時の応急処置・救命活動を学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	クライアントの状況を見て、適切なプログラミングが出来るようになる。また、応急処置や適切な救命活動ができる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	内科的障がい(生活習慣病)1			
		②	内科的障がい(生活習慣病)2			
		③	内科的障がい(生活習慣病)3			
		④	内科的障がい(生活習慣病)4			
		⑤	外科的障がい(上肢)			
		⑥	外科的障がい(下肢:足関節)			
		⑦	外科的障がい(下肢:膝関節)			
		⑧	外科的障がい(下肢:股関節)			
		⑨	外科的障がい(脊椎・脳震盪など)			
		⑩	テーピングとスポーツマッサージの実際			
		⑪	運動負荷試験(運動負荷心電図)1			
		⑫	運動負荷試験(運動負荷心電図)2			
		⑬	応急処置(上級救命講習:消防庁)			
		⑭	救急法(上級救命講習:消防庁)			
		⑮	救急法(上級救命講習:消防庁)			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康運動指導演習 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	24	
3	授 業 時 数	30	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	横山 純一郎		9 授 業 形 態	演習
		資 格	JATI-ATI、サッカーB級コーチ、地域スポーツC級指導員		所	属 TRASTA JAPAN
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上			
11	教 科 書	テキストブック介護予防運動指導士				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	YMCA介護予防運動指導士、健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	介護予防運動:YMCA介護予防運動指導士に必要な基礎知識を習得する。 リハ助手:リハビリテーション助手に必要な知識(症例)や技術(介助・援助)の基礎を学ぶ。 トレーナー:ファンクショナルトレーニングの基礎について学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	それぞれの現場で、すぐに指導実践が出来る人材を目指す。また、多くの現場や指導法を学ぶ事で、様々なことに対応できる幅広い指導者を目指す。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	介護予防運動指導の基礎知識1			
		②	介護予防運動指導の基礎知識2			
		③	介護予防運動指導の基礎知識3			
		④	介護予防運動指導の基礎知識4			
		⑤	介護予防運動指導の基礎知識5			
		⑥	リハビリテーション助手の基礎知識1			
		⑦	リハビリテーション助手の基礎知識2			
		⑧	リハビリテーション助手の基礎知識3			
		⑨	リハビリテーション助手の基礎知識4			
		⑩	リハビリテーション助手の基礎知識5			
		⑪	ファンクショナルトレーニングの基礎知識1			
		⑫	ファンクショナルトレーニングの基礎知識2			
		⑬	ファンクショナルトレーニングの基礎知識3			
		⑭	ファンクショナルトレーニングの基礎知識4			
		⑮	ファンクショナルトレーニングの基礎知識5			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康運動指導演習Ⅱ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	25	
3	授 業 時 数	30	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	横山 純一郎		9 授 業 形 態	演習
		資 格	JATI-ATI、サッカーB級コーチ、地域スポーツC級指導員		所 属	TRASTA JAPAN
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上 専門学校講師10年以上			
11	教 科 書	テキストブック介護予防運動指導士				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	YMCA介護予防運動指導士、健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	介護予防運動:YMCA介護予防運動指導士の業務について実践的な知識を習得する。 リハ助手:リハビリテーション助手に必要な知識(症例)や技術(介助・援助)を実践的に学ぶ。 トレーナー:ファンクショナルトレーニングの実際について演習的に学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	それぞれの現場で、すぐに指導実践が出来る人材を目指す。また、多くの現場や指導法を学ぶ事で、様々なことに対応できる幅広い指導者を目指す。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	介護予防運動指導の実際1			
		②	介護予防運動指導の実際2			
		③	介護予防運動指導の実際3			
		④	介護予防運動指導の実際4			
		⑤	介護予防運動指導の実際5			
		⑥	リハビリテーション助手の実際1			
		⑦	リハビリテーション助手の実際2			
		⑧	リハビリテーション助手の実際3			
		⑨	リハビリテーション助手の実際4			
		⑩	リハビリテーション助手の実際5			
		⑪	ファンクショナルトレーニングの実際1			
		⑫	ファンクショナルトレーニングの実際2			
		⑬	ファンクショナルトレーニングの実際3			
		⑭	ファンクショナルトレーニングの実際4			
		⑮	ファンクショナルトレーニングの実際5			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	レクリエーション論	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	26	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	横田 真佐子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	文学士、レクリエーションコーディネーター、福祉レクリエーションワーカー		所 属	有限会社ディスクスポーツ
		実 務 経 験	レクリエーションコーディネーター20年以上			
11	教 科 書	楽しさをとおした心の元気づくり				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指す科目である。レクリエーションの基礎理論、支援理論、事業論の3つの柱で構成されている。				
14	科 目 の 到 達 目 標	レクリエーションの概念を理解し、レクリエーションの主体形成に向けて、多様なレクリエーション領域のどこで、どのように展開していくのかを理解する。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	レクリエーション概論 自己開示と他者理解			
		②	アイスブレーキングと人間関係訓練			
		③	レクリエーションの意義・レクリエーション運動を支える制度			
		④	レクリエーション・インストラクターの役割とスポーツレクリエーション			
		⑤	ライフスタイルとレクリエーション			
		⑥	ウォークラリー			
		⑦	高齢化社会と少子化の課題とレクリエーション			
		⑧	レクリエーション事業の考え方			
		⑨	アセスメントによるプログラム計画			
		⑩	市民を対象とした事業の作り方			
		⑪	レクリエーション活動の安全管理			
		⑫	対象者と良好な関係を築くホスピタリティ			
		⑬	目的と対象に合わせたレクリエーションワーク			
		⑭	子ども対象のレクリエーション活動の企画と発表			
		⑮	前期のまとめと振り返り			
18	参 考 書					

1	課	程	社会福祉課程	5	科	目	名	運動処方																												
2	学	科	健康スポーツ科	6	科	目	番	号																												
3	授	業	時	数	7	期		前期																												
4	開	講	学	年	8	選	択	・																												
								必修																												
10	担	当	氏	名	梯	誠	剛	9																												
			資	格	JSPO-AT	健康	運動	指導	士																											
			実	務	経	験	スポーツトレーナー7年、日本オリンピック委員会強化スタッフ3年																													
						授	業	形	態	演	習																									
						所		属	コンディショニングサロンBridge																											
11	教	科	書	健康運動実践指導者養成用テキスト																																
12	関	連	資	格	・	検	定	等	健康運動実践指導者																											
13	科	目	の	概	要	健康づくりのための至適な運動には、まず対象者の健康状態を把握することが重要である。これらを理解した上で、適切な種目・強度・時間・頻度等を決定し、安全で効果的な運動を提供することが運動処方である。対象者の目的・状態に応じた適切な運動プログラムを提供できる能力を身につける。																														
14	科	目	の	到	達	目	標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診査や運動処方に必要な生理学的指標の異常値を判断できる。 ・運動処方の原則を説明できる。 ・対象者に応じた運動処方を作成できる。 																												
15	科	目	の	必	須	条	件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。																												
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準																									
											成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: karoujute認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)																									
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	メ	ディ	カル	チ	ェ	ッ	ク	の	意	義																
										②	健	康	診	査	及	び	そ	の	基	準	値															
										③	各	種	検	査	結	果	の	見	方																	
										④	心	電	図	の	基	礎	と	読	み	方																
										⑤	ト	レ	ー	ニ	ン	グ	期	間	の	前	後	及	び	期	間	中	の	チ	ェ	ッ	ク	の	必	要	性	
										⑥	運	動	プ	ロ	グ	ラ	ム	作	成	の	原	則														
										⑦	各	種	運	動	の	強	度																			
										⑧	服	薬	中	の	運	動	指	導																		
										⑨	生	活	習	慣	病	の	運	動	療	法	と	そ	の	実	際	(肥	満	症)								
										⑩	生	活	習	慣	病	の	運	動	療	法	と	そ	の	実	際	(高	血	圧	症)							
										⑪	生	活	習	慣	病	の	運	動	療	法	と	そ	の	実	際	(糖	尿	病)								
										⑫	生	活	習	慣	病	の	運	動	療	法	と	そ	の	実	際	(虚	血	性	心	疾	患)					
										⑬	生	活	習	慣	病	の	運	動	療	法	と	そ	の	実	際	(脂	質	異	常	症)						
										⑭	生	活	習	慣	病	の	運	動	療	法	と	そ	の	実	際	(ロ	コ	モ	ティ	ブ	シ	ン	ド	ロ	ー	ム)
										⑮	運	動	指	導	上	の	注	意	点	及	び	総	括													
18	参	考	書	健康運動指導士養成講習会テキスト、運動処方の指針(ACSM)、健康づくりのための身体活動基準(厚生労働省)、他																																

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	コーチングコミュニケーション I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	28	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	横山 純一郎	9	授 業 形 態	演習
		資 格	JATI-ATI、サッカーB級コーチ、地域スポーツC級指導員		所 属	TRASTA JAPAN
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上 専門学校講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	コーチングの考え方から伝えることにフォーカスし、コーチング技法を学ぶ。そのために座学、演習により、実際のコーチングスキルを身に着けます。				
14	科 目 の 到 達 目 標	演習で、ミーティング・シンクロコーチング・フリーズコーチングができるようになる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション 自己紹介の目的			
		②	コーチング現場で必要な複式発声と羞恥心			
		③	コーチを演じる			
		④	体で自己表現する方法と心理状態			
		⑤	ロジカルコミュニケーションスキル 要約			
		⑥	ロジカルコミュニケーションスキル 分析			
		⑦	ロジカルコミュニケーションスキル 伝える			
		⑧	ロジカルコミュニケーションスキル 問答			
		⑨	PDCAサイクルとMTMメゾッド			
		⑩	まとめコーチング論			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	コーチングコミュニケーションⅡ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	29	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	横山 純一郎	9	授 業 形 態	演習
		資 格	JATI-ATI、サッカーB級コーチ、地域スポーツC級指導員		所 属	TRASTA JAPAN
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上 専門学校講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	コーチングの考え方から伝えることにフォーカスし、コーチング技法を学ぶ。そのために座学、演習により、実際のコーチングスキルを身に着けます。				
14	科 目 の 到 達 目 標	演習で、ミーティング・シンクロコーチング・フリーズコーチングができるようになる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション 指導案の書き方			
		②	コーチングのお手本①(学生は選手役)			
		③	コーチングのお手本②(学生は選手役)			
		④	コーチングのお手本③(学生は選手役)			
		⑤	コーチングのお手本④(学生は選手役)			
		⑥	コーチングの実際①(学生はコーチ役)			
		⑦	コーチングの実際②(学生はコーチ役)			
		⑧	コーチングの実際③(学生はコーチ役)			
		⑨	コーチングの実際④(学生はコーチ役)			
		⑩	補講・予備・まとめ			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康・体力づくり論 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	30	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	講義
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES			所 属
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
教 科 書	健康運動実践指導者養成テキスト					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	トレーニングに対する身体の適応やトレーニング方法による特異性、個体差を考慮する必要性を学ぶ				
14	科 目 の 到 達 目 標	対象者の状況や目的に応じ、トレーニングの原則を理解しながらプログラミングが出来る。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	体力とは			
		②	トレーニングの原則			
		③	トレーニングの条件と効果			
		④	運動強度の指標			
		⑤	筋力トレーニングの効果			
		⑥	筋パワートレーニングの効果			
		⑦	筋持久力の効果			
		⑧	筋肥大のトレーニング方法			
		⑨	症例に合わせたレジスタンストレーニング			
		⑩	まとめ			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康・体力づくり論Ⅱ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	31	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	講義
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES			所 属
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	トレーニングに対する身体の適応やトレーニング方法による特異性、個体差を考慮する必要性を学ぶ				
14	科 目 の 到 達 目 標	対象者の状況や目的に応じ、トレーニングの原則を理解しながらプログラミングが出来る。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	有酸素運動と無酸素運動			
		②	有酸素運動の効果			
		③	有酸素運動の実際			
		④	成長期の身体的特性			
		⑤	成長期のトレーニング			
		⑥	子どもとスポーツ			
		⑦	運動と性差			
		⑧	加齢変化と運動			
		⑨	障害者とトレーニング			
		⑩	まとめ			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書	健康運動指導者養成講習会テキスト、運動処方指針(ACSM)、健康づくりのための身体活動基準(厚生労働省)、他				

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康・体づくり演習 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	32	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	梯 誠剛	9	授 業 形 態	演習
		資 格	JSPO-AT 健康運動指導士		所 属	コンディショニングサロンBridge
		実 務 経 験	スポーツトレーナー7年、日本オリンピック委員会強化スタッフ3年			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	各種エクササイズのプロプログラムを自ら実践し、生体負担度や生体反応を体感する。また、指導者の立場から見た指導時のポイントや安全管理について学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	各種エクササイズのプロプログラムの実践ができる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	ウォームアップとクールダウン			
		③	ストレッチング			
		④	筋カトレーニング			
		⑤	自重利用による静的運動			
		⑥	固定物利用及びパートナーによる静的運動			
		⑦	フリーウエイトによる動的運動			
		⑧	マシンによる動的運動			
		⑨	有酸素運動の理論			
		⑩	有酸素運動の実際			
		⑪	高齢者の自立機能			
		⑫	高齢者の運動指導			
		⑬	介護予防のための運動目標			
		⑭	介護予防と運動プログラム			
		⑮	運動指導上の注意点及び総括			
18	参 考 書	健康運動指導士養成講習会テキスト、運動処方指針(ACSM)、健康づくりのための身体活動基準(厚生労働省)、他				

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康・体力づくり演習Ⅱ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	33	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	梯 誠剛	9	授 業 形 態	演習
		資 格	JSPO-AT 健康運動指導士		所 属	コンディショニングサロンBridge
		実 務 経 験	スポーツトレーナー7年、日本オリンピック委員会強化スタッフ3年			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	各種エクササイズのパログラムを作成して、それを自ら実践し、生体負担度や生体反応をみる。また、指導者の立場から見た指導時のポイントや安全管理について学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	各種エクササイズのパログラムの作成および指導が実践できるようになる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	初心者指導(黒木)			
		③	ダンベル体操・ストレッチポールの実践			
		④	測定・カウンセリング			
		⑤	マシン指導1			
		⑥	マシン指導2			
		⑦	指導実践1			
		⑧	指導評価1			
		⑨	指導実践2			
		⑩	指導評価2			
		⑪	指導実践3			
		⑫	指導評価3			
		⑬	指導実践4			
		⑭	指導評価4			
		⑮	モデル指導実践および総括			
18	参 考 書	健康運動指導士養成講習会テキスト、運動処方の指針(ACSM)、健康づくりのための身体活動基準(厚生労働省)、他				

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	コンディショニング演習 I		
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	34		
3	授 業 時 数	20時間	7	期	前期		
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修		
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	演習	
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES				所 属
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上				
教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト						
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT					
13	科 目 の 概 要	自らの体のコンディショニングを向上させるため、テーパリングやコンディショニングトレーニングの基礎知識および方法について実践的に学ぶ。					
14	科 目 の 到 達 目 標	自身の身体の不調部位等を評価し、改善するためのアプローチができる。					
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション				
		②	コンディショニングとは				
		③	モニタリング				
		④	運動機能評価				
		⑤	運動による改善アプローチ1-筋膜リリース				
		⑥	運動による改善アプローチ2-ストレッチング				
		⑦	運動による改善アプローチ3-ムーブメントプレパレーション				
		⑧	運動による改善アプローチ4-統合的エクササイズ				
		⑨	テーパリングとは				
		⑩	まとめ				
		⑪					
		⑫					
		⑬					
		⑭					
		⑮					
18	参 考 書						

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	コンディショニング演習Ⅱ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	35	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	演習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	自らの体のコンディショニングを向上させ、テーピングやカーボローディングを実践し、コンディショニングを自らの体で学ぶ。また、マラソン大会等に向けて筋持久力を中心に高める。				
14	科 目 の 到 達 目 標	フルマラソンを6時間以内での完走。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	30分完走・筋カトレーニングの方法論			
		③	40分完走・筋カトレーニングの方法論			
		④	50分完走・筋カトレーニングの方法論			
		⑤	1時間走・筋カトレーニングの方法論			
		⑥	3333段トレーニング			
		⑦	30分完走・筋カトレーニング			
		⑧	30分完走・筋カトレーニング			
		⑨	30分完走・筋カトレーニング			
		⑩	ハーフマラソン			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	水泳・水中運動指導演習	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	36	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	緒方 由美子	9	授 業 形 態	実技
		資 格			所 属	公益財団法人熊本YMCA
		実 務 経 験	スポーツインストラクター25年			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者				
13	科 目 の 概 要	みなみYMCAプールにて実技指導を行う。初級レベルから上級レベルまでの指導法を体系的に習得する。また、アクアビクスなどの水中運動も導入する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	水泳においては、YMCAアクアティックプログラムのワッペン基準に則した水泳指導法を理解し習得する。特に初心レベルに力を入れ、日本YMCAアクアティックプログラムのカニワッペンからサンマワッペン程度を学び実践できるように準備する。また、水中運動においては、健康運動実践指導者養成用テキスト記載の指導法を理解し、初心者指導ができるレベルになる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: karoujite認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション 泳力チェック			
		②	水泳指導体系について① 泳力向上(クロール)			
		③	水泳指導体系について② 泳力向上(クロール)			
		④	泳力向上(背泳ぎ)	指導法理解①(カニ)		
		⑤	泳力向上(背泳ぎ)	指導法理解②(タコ)		
		⑥	水上安全① BLS(AEDを含む心肺蘇生)			
		⑦	水上安全② 着衣泳			
		⑧	泳力向上(平泳ぎ)	指導法理解③(クラゲ)		
		⑨	泳力向上(平泳ぎ)	指導法理解④(タツ)		
		⑩	泳力向上(バタフライ)	指導法理解⑤(フグ)		
		⑪	泳力向上(バタフライ)	指導法理解⑥(サンマ)		
		⑫	水中運動 アクアビクス			
		⑬	水中運動 フィンスイム			
		⑭	水中運動 水中ウォーキング			
		⑮	水泳・水中運動指導実践			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	フィットネス指導演習	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	37	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	演習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書	NSCAジャパン ストレngth&コンディショニング エクササイズ・バイブル				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	スポーツパフォーマンスアップや体力づくりを目指し、各種エクササイズのプログラムを作成して、それを対象者に指導実践し、生体負担度や生体反応をみてフィードバックを行う。また、指導者の立場から見た指導時のポイントや安全管理について学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	各種エクササイズのプログラムの作成および指導実践ができるようになる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	フィットネスとは			
		③	健康づくりとフィットネス			
		④	スポーツパフォーマンスとフィットネス			
		⑤	フィットネスプログラムの作成方法1			
		⑥	フィットネスプログラムの作成方法2			
		⑦	フィットネス指導実践1			
		⑧	フィットネス指導実践2			
		⑨	フィットネス指導実践3			
		⑩	ディスカッション1			
		⑪	フィットネス指導実践4			
		⑫	フィットネス指導実践5			
		⑬	フィットネス指導実践6			
		⑭	ディスカッション2			
		⑮	まとめ			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	ジュニアスポーツ指導実践演習 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	38	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	伊藤 眞太郎	9	授 業 形 態	実技
		資 格	小学校教諭一種免許状 サッカーC級コーチ		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上 専門学校講師2年			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	小学2・3年生の体力向上を目指し、地域の小学生への運動指導を行う。指導法や様々な子ども達に対する接し方や理解を学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	子ども達の体力テストが向上していることをゴールとし、その為にプログラミングする。学生自身も指導力が上がることが最大のゴールである。また、指導を好きになる事も目標とする。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ジ ュ ー ル	①	目的の確認、プログラミング1			
		②	指導実践 振り返り1			
		③	プログラミング2			
		④	指導実践 振り返り2			
		⑤	プログラミング3			
		⑥	指導実践 振り返り3			
		⑦	プログラミング4			
		⑧	指導実践 振り返り4			
		⑨	プログラミング5			
		⑩	指導実践 振り返り5			
		⑪	プログラミング6			
		⑫	指導実践 振り返り6			
		⑬	プログラミング			
		⑭	指導実践 振り返り			
		⑮	体力測定			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	ジュニアスポーツ指導実践演習Ⅱ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	39	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	伊藤 真太郎	9	授 業 形 態	実技
		資 格	小学校教諭一種免許状 サッカーC級コーチ		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上 専門学校講師2年			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	小学2・3年生の体力向上を目指し、地域の小学生への運動指導を行う。その中で、指導法や様々な子ども達に対する接し方や理解を学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	子ども達の体力テストが向上していることをゴールとし、その為にプログラミングする。また、学生自身も指導力が上がることも最大のゴールである。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	目的の確認、プログラミング1			
		②	指導実践 振り返り1			
		③	プログラミング2			
		④	指導実践 振り返り2			
		⑤	プログラミング3			
		⑥	指導実践 振り返り3			
		⑦	プログラミング4			
		⑧	指導実践 振り返り4			
		⑨	プログラミング5			
		⑩	指導実践 振り返り5			
		⑪	プログラミング6			
		⑫	指導実践 振り返り6			
		⑬	プログラミング			
		⑭	指導実践 振り返り			
		⑮	体力測定			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	レクリエーション実技	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	40	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	横田 真佐子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	文学士、レクリエーションコーディネーター、福祉レクリエーションワーカー		所 属	有限会社ディスクスポーツ
		実 務 経 験	講師歴10年以上			
11	教 科 書	楽しさをとおした心の元気づくり				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指す科目である。レクリエーションの基礎理論、支援理論、事業論の3つの柱で構成されている。この3つの実技編である。				
14	科 目 の 到 達 目 標	目的に沿ったアクティビティの選択と展開方法、対象に合わせたアレンジ方法を知る。個人・集団・環境に対する支援といった人を支える支援力の向上を活動領域に合わせて図れるようにしていく。また、対象者の主体性や持っている能力を引き出す支援が出来るように理解を深める。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	後期の授業概論 あらためてレクリエーションとは			
		②	ニュースポーツ種目 アルティメット			
		③	ソングの活用法			
		④	レクリエーション種目 室内ペタンク他			
		⑤	障がい者スポーツ シットイングバレーボール等			
		⑥	ホスピタリティの示し方とコミュニケーション力			
		⑦	ニューエルダー元気塾 レク式体力測定			
		⑧	小学生対象の体を使った仲間づくり活動			
		⑨	介護予防体操の実際と進め方			
		⑩	ネイチャーレクリエーション・ネイチャーゲーム			
		⑪	チャレンジザゲーム			
		⑫	ディスクゴルフ・スラックライン			
		⑬	サロンレクリエーション 個人実施計画発表			
		⑭	ロコモティブシンドローム予防運動			
		⑮	まとめ			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	スポーツ指導法 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	41	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	横山 純一郎	9	授 業 形 態	実技
		資 格	JATI-ATI、サッカーB級コーチ、地域スポーツC級指導員		所 属	TRASTA JAPAN
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上 専門学校講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	ゴール型チームスポーツを理解し、協力し、ゴールを目指すために個人が何をしなければならないかを学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	チームとして勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームが展開できることを目指す。また、個人とチームの課題がわかり、その課題に向けたトレーニングを作成することが出来る。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション・ルールと特性			
		②	基礎技術(パス・ドリブル・シュート)			
		③	個人戦術			
		④	グループ戦術			
		⑤	チーム戦術			
		⑥	試合を行い課題抽出			
		⑦	解題のトレーニング オーガナイズを理解する			
		⑧	コーチングスキル			
		⑨	MTMの理解			
		⑩	試合を行い課題抽出			
		⑪	トレーニング			
		⑫	試合を行い評価			
		⑬	指導実践			
		⑭	指導実践			
		⑮	指導実践			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	スポーツ指導法Ⅱ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	42	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	伊藤 真太郎	9	授 業 形 態	実技
		資 格	小学校教諭一種免許状 サッカーC級コーチ		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター10年以上 専門学校講師2年			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	ネット型(バレー・バドミントン)チームスポーツを理解し、協力し、得点を目指すために個人が何をしなければならぬかを学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	チームとして勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームが展開できることを目指す。また、個人とチームの課題がわかり、その課題に向けたトレーニングを作成することが出来る。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ジ ュ ー ル	①	オリエンテーション・ルールと特性			
		②	基礎技術(レシーブ・トス・スパイク)			
		③	個人戦術			
		④	グループ戦術			
		⑤	チーム戦術			
		⑥	試合を行い課題抽出			
		⑦	解題のトレーニング オーガナイズを理解する			
		⑧	コーチングスキル			
		⑨	MTMの理解			
		⑩	試合を行い課題抽出			
		⑪	トレーニング			
		⑫	試合を行い評価			
		⑬	指導実践			
		⑭	指導実践			
		⑮	指導実践			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	スポーツ指導法Ⅲ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	43	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実技
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者、NSCA-CPT				
13	科 目 の 概 要	様々な運動・スポーツ能力の向上を目指して、プライオメトリックトレーニングおよびスピードトレーニングについて知識・実践力を身につける。				
14	科 目 の 到 達 目 標	弾性エネルギー、SSC、プライオメトリックトレーニングおよびスピードトレーニングについて記述できる。また、対象者の状況や目的に応じて、パワーやスピードを向上させるプログラムを提供できる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	プライオメトリックトレーニングとは			
		②	垂直系両脚ジャンプ運動			
		③	水平系両脚ジャンプ運動			
		④	障害物を用いた両脚ジャンプ運動			
		⑤	片足ジャンプ運動			
		⑥	様々なプライオメトリックトレーニング			
		⑦	プライオメトリックトレーニング実技テスト			
		⑧	スピードトレーニングとは(座学)			
		⑨	スピードトレーニング①最大下スピード			
		⑩	スピードトレーニング②超最大スピード			
		⑪	クイックネストトレーニング			
		⑫	アジリティトレーニング			
		⑬	様々なスピードトレーニング			
		⑭	スピードトレーニング実技テスト			
		⑮	まとめ 筆記テスト			
18	参 考 書	NSCA/パーソナルトレーナーのための基礎知識 ウイダーズトレーニング&コンディショニングエクササイズパイブル				

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康運動実践指導者学科試験 対策 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	56	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	講義
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者				
13	科 目 の 概 要	健康運動実践指導者の筆記対策授業である。				
14	科 目 の 到 達 目 標	健康運動実践指導者の模擬試験において60点以上取れるようになること。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ジ ュ ー ル	①	オリエンテーション・模擬試験1			
		②	過去問1			
		③	過去問2			
		④	模擬試験2			
		⑤	過去問3			
		⑥	過去問4			
		⑦	過去問5			
		⑧	模擬試験3			
		⑨	過去問6			
		⑩	過去問7			
		⑪	過去問8			
		⑫	模擬試験4			
		⑬	過去問9			
		⑭	過去問10			
		⑮	模擬試験5			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康運動実践指導者学科試験 対策Ⅱ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	57	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜		9 授 業 形 態	講義
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者				
13	科 目 の 概 要	健康運動実践指導者の筆記対策授業である。				
14	科 目 の 到 達 目 標	健康運動実践指導者の模擬試験において80点以上取れるようになること。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: karouじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ジ ュ ー ル	①	オリエンテーション・模擬試験1			
		②	過去問1			
		③	過去問2			
		④	模擬試験2			
		⑤	過去問3			
		⑥	過去問4			
		⑦	過去問5			
		⑧	模擬試験3			
		⑨	過去問6			
		⑩	過去問7			
		⑪	過去問8			
		⑫	模擬試験4			
		⑬	過去問9			
		⑭	過去問10			
		⑮	模擬試験5			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	健康運動実践指導者実技試験対策	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	46	
3	授 業 時 数	60時間	7	期	通期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	梯 誠剛、横山 純一郎		9 授 業 形 態	実技
		資 格	梯:健康運動指導士、JSPO-AT 横山: JATI-ATI、サッカーB級コーチ、地域スポーツC級指導員		所 属	梯:コンディショニングサロン Bridge 横山: TRASTA JAPAN
		実 務 経 験	梯:スポーツトレーナー7年、日本オリンピック委員会強化スタッフ3年 横山:スポーツインストラクター10年以上、専門学校講師9年			
11	教 科 書	健康運動実践指導者養成用テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	健康運動実践指導者				
13	科 目 の 概 要	健康運動実践指導者の実技試験対策に取り組むとともに、健康運動実践指導者に必要な実技指導力を身につけることを目的とする。具体的には、受験科目の「陸上運動」におけるレジスタンスエクササイズおよびエアロビックダンスにおいて、健康運動実践指導者に必要とされる能力、すなわち「運動プログラムを構成する」「動きの見本を示す」「動きを指導する」能力を高めることを目指す。				
14	科 目 の 到 達 目 標	健康運動実践指導者の実技試験に合格するために十分な知識及び指導実践能力を身につける。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: karoujite認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション・実技チェック	⑩	キューイングと指導ポジション	
		②	エクササイズの観察と評価	⑪	エアロビックダンス指導法1	
		③	動きの修正と動機づけ(フィードバック)	⑫	エアロビックダンス指導法2	
		④	エクササイズ指導計画1	⑬	エアロビックダンス指導法3	
		⑤	エクササイズ指導計画2	⑭	エアロビックダンス指導法4	
		⑥	エクササイズ指導計画3	⑮	エアロビックダンス指導実践1	
		⑦	エクササイズ指導計画4	⑯	エアロビックダンス指導実践2	
		⑧	レジスタンスエクササイズ指導法1	⑰	エアロビックダンス指導実践3	
		⑨	レジスタンスエクササイズ指導法2	⑱	エアロビックダンス指導実践4	
		⑩	レジスタンスエクササイズ指導法3	⑲	総合練習1	
		⑪	レジスタンスエクササイズ指導法4	⑳	総合練習2	
		⑫	レジスタンスエクササイズ指導実践1	㉑	総合練習3	
		⑬	レジスタンスエクササイズ指導実践2	㉒	総合練習4	
		⑭	レジスタンスエクササイズ指導実践3	㉓	模擬試験1	
		⑮	レジスタンスエクササイズ指導実践4	㉔	模擬試験2 まとめ	
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	進路別対策 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	47	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	講義
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	個別コース:個別の目標に向けた計画を立て、実行すること トレーナーコース: NSCA-CPTに向けて対策授業 健康福祉指導者コース: 初任者研修の受講				
14	科 目 の 到 達 目 標	個別の目標を立て、その目標に向けてのプロセスを大切に、目標を達成する。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション・目標達成計画			
		②	個別・振り返り1			
		③	個別・振り返り2			
		④	個別・振り返り3			
		⑤	個別・振り返り4			
		⑥	個別・振り返り5			
		⑦	個別・振り返り6			
		⑧	個別・振り返り7			
		⑨	個別・振り返り8			
		⑩	目標達成度を数値化			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	進路別対策Ⅱ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	48	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	演習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	個別コース:個別の目標に向けた計画を立て、実行すること トレーナーコース:NSCA-CPTに向けて対策授業 健康福祉指導者コース:初任者研修の受講				
14	科 目 の 到 達 目 標	個別の目標を立て、その目標に向けてのプロセスを大切に、目標を達成する。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション・目標達成計画			
		②	個別・振り返り1			
		③	個別・振り返り2			
		④	個別・振り返り3			
		⑤	個別・振り返り4			
		⑥	個別・振り返り5			
		⑦	個別・振り返り6			
		⑧	個別・振り返り7			
		⑨	個別・振り返り8			
		⑩	目標達成度を数値化			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	運動指導実践実習 I	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	49	
3	授 業 時 数	45時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	各個人の希望する企業と連携し、トレーナーや健康づくり指導者として実践的な指導実習を行う。その中で、施設運営や管理、カウンセリング、プログラムメニューのデザイン、運動指導を実践的に学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	スポーツクラブやスポーツスクールの運営方法を学ぶ。クライアントとのコミュニケーション、プログラム作成、実行などを実践できる。実際に運動指導やマシン指導・フリーウエイトの指導ができる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	目的の確認、プログラミング1			
		②	指導実践 振り返り1			
		③	プログラミング2			
		④	指導実践 振り返り2			
		⑤	プログラミング3			
		⑥	指導実践 振り返り3			
		⑦	プログラミング4			
		⑧	指導実践 振り返り4			
		⑨	プログラミング5			
		⑩	指導実践 振り返り5			
		⑪	プログラミング6			
		⑫	指導実践 振り返り6			
		⑬	プログラミング			
		⑭	指導実践 振り返り			
		⑮	まとめ、振り返り			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	運動指導実践習Ⅱ	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	50	
3	授 業 時 数	45時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	各個人の希望する企業と連携し、トレーナーや健康づくり指導者として実践的な指導実習を行う。その中で、施設運営や管理、カウンセリング、プログラムメニューのデザイン、運動指導を実践的に学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	スポーツクラブやスポーツスクールの運営方法を学ぶ。クライアントとのコミュニケーション、プログラム作成、実行などを実践できる。実際に運動指導やマシン指導・フリーウエイトの指導ができる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	目的の確認、プログラミング1			
		②	指導実践 振り返り1			
		③	プログラミング2			
		④	指導実践 振り返り2			
		⑤	プログラミング3			
		⑥	指導実践 振り返り3			
		⑦	プログラミング4			
		⑧	指導実践 振り返り4			
		⑨	プログラミング5			
		⑩	指導実践 振り返り5			
		⑪	プログラミング6			
		⑫	指導実践 振り返り6			
		⑬	プログラミング			
		⑭	指導実践 振り返り			
		⑮	まとめ、振り返り			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	登山実習	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	51	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	クラス全員で協力しながら3泊4日の九重縦走を行い、ソーシャルスキルの再構築と自然の中での活動を通じて、自らの人生を見つめなおす機会とする。				
14	科 目 の 到 達 目 標	クラス全員で行動し、協力する。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	装備の確認			
		③	登山:グループ活動1			
		④	登山:グループ活動2			
		⑤	登山:グループ活動3			
		⑥	登山:グループ活動4			
		⑦	登山:グループ活動5			
		⑧	登山:グループ活動6			
		⑨	野外生活:グループ活動1			
		⑩	野外生活:グループ活動2			
		⑪	野外生活:グループ活動3			
		⑫	野外生活:グループ活動4			
		⑬	野外生活:グループ活動5			
		⑭	野外生活:グループ活動6			
		⑮	片づけ・振り返り			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	トップスポーツ実習	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	52	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	健康スポーツ領域の現場における実践力を身につけるため、プロトレーナーと連携してIT技術を活用したコンディショニング管理やGPSツールを用いた指導など最新の運動指導法について実践的に学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	IT技術を活用したコンディショニング管理やGPSツール等を用い、コンディショニングおよび運動能力の評価から改善アプローチまでの方法を理解する。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション、意義のある実習にするために			
		②	トレーナーことはじめ、成果を出すトレーナーの思考			
		③	行動・実践・問題解決			
		④	目標設定の実際			
		⑤	カウンセリングの実際			
		⑥	動作評価・分析の実際			
		⑦	エクササイズの考え方1			
		⑧	エクササイズの考え方2			
		⑨	エクササイズの考え方3			
		⑩	コンディショニングツールの活用1			
		⑪	コンディショニングツールの活用2			
		⑫	GPSデバイスの活用1			
		⑬	GPSデバイスの活用2			
		⑭	トレーナーで食べていく、人との出会いと継続			
		⑮	総括、トレーナー最新情報			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	ウインタースポーツ実習	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	53	
3	授 業 時 数	40時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	①スケート ②スキー 以上のウインタースポーツの初心者指導を行うための理論と技術を学び、実技実践を行う。				
14	科 目 の 到 達 目 標	スケートおよびスキーの初心者指導ができるようになる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	氷・雪の特性と装備の確認			
		③	スケート: 初心者指導(前進滑走)			
		④	スケート: 初心者指導(バック走行)			
		⑤	スケート: 初心者指導(前進クロス)			
		⑥	スケート: 初心者指導(バッククロス)			
		⑦	スキー: 初心者指導(平地滑走)			
		⑧	スキー: 初心者指導(体重移動・緩斜面滑走)			
		⑨	スキー: 初心者指導(ターン導入・緩斜面滑走)			
		⑩	スキー: 初心者指導(プルークボーゲン・緩斜面・中斜面滑走)			
		⑪	スキー: 初心者指導(シュテムターン・緩斜面・中斜面滑走)			
		⑫	スキー: 初心者指導(パラレルターン大回り・緩斜面・中斜面滑走)			
		⑬	スキー: 初心者指導(パラレルターン大回り・中斜面・急斜面滑走)			
		⑭	スキー: 初心者指導(パラレルターン大回り・小回り中斜面不整地有滑走)			
		⑮	総括、振り返り			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	マリンスポーツ実習	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	54	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	①シーカヤック ②ダイビング 以上のマリンスポーツの初心者指導を行うための理論と技術をつけ、実技実践を行う。				
14	科 目 の 到 達 目 標	シーカヤックおよびダイビングの初心者指導ができるようになる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	水の特性と水のレジャーに対する装備の確認			
		③	シーカヤック実技1			
		④	シーカヤック実技2			
		⑤	シーカヤック実技3			
		⑥	シーカヤック実技4			
		⑦	シーカヤック実技5			
		⑧	ダイビング実技1			
		⑨	ダイビング実技2			
		⑩	ダイビング実技3			
		⑪	ダイビング実技4			
		⑫	ダイビング実技5			
		⑬	ダイビング実技6			
		⑭	ダイビング実技7			
		⑮	片づけ・振り返り			
18	参 考 書					

1	課	程	社会福祉課程	5	科	目	名	ゴルフ実習			
2	学	科	健康スポーツ科	6	科	目	番	号			
3	授	業	時	数	7	期		後期			
4	開	講	学	年	8	選	択	・			
								必修			
10	担	当	氏	名	横山	純	一	郎			
			資	格	JATI-ATI、サッカーB級コーチ、地域スポーツC級指導員						
			実	務	経	験	スポーツインストラクター13年 専門学校講師7年				
9	授	業	形	態	実技						
					所	属 専修学校熊本YMCA学院					
11	教	科	書								
12	関	連	資	格	・	検	定	等			
13	科	目	の	概	要	ゴルフ競技の初心者指導とゴルフ産業について知る。					
14	科	目	の	到	達	目	標	ゴルフ競技の初心者指導ができるようになる。また、ゴルフ産業を理解し、ゴルフについての知識を得ている。			
15	科	目	の	必	須	条	件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。			
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価		
									基準		
								成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)			
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル		
										①	オリエンテーション・座学・歴史
										②	実技・振り返り(練習場)1
										③	実技・振り返り(練習場)2
										④	実技・振り返り(練習場)3
										⑤	実技・振り返り(練習場)4
										⑥	実技・振り返り(練習場)5
										⑦	座学・理論1
										⑧	実技・振り返り(練習場)1
										⑨	実技・振り返り(練習場)2
										⑩	実技・振り返り(練習場)3
										⑪	実技・振り返り(練習場)4
										⑫	実技・振り返り(練習場)5
										⑬	座学・理論2
										⑭	実技・振り返り(コース)1
⑮	実技・振り返り(コース)2										
18	参	考	書								

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	コース別実習	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	56	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	各個人の希望施設にて、トレーナーや健康づくり指導者として30時間の職場実習を行う。その中で、施設運営や管理、カウンセリング、プログラムメニューのデザイン、運動指導を学び、1年生後期のコース分けを自らの意志で決断するための情報を整理する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	施設管理の運営方法を理解できる。クライアントの情報を基にプログラムを作成し、実行することができる。各施設で実際に運動指導やマシン指導・フリーウエイトの指導を行える。また、1年生後期のコース分けを自らの意志で決断し、コースによって専門的知識を自ら学ぼうとする意欲を持つことができる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: karoujite認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション、施設の使用方法和注意事項、避難経路・救急時の備品確認			
		②	安全管理・マナー全般・トレーニング機器の使用法について1			
		③	安全管理・マナー全般・トレーニング機器の使用法について2			
		④	安全管理・マナー全般・トレーニング機器の使用法について3			
		⑤	利用者への対応とカウンセリング1			
		⑥	利用者への対応とカウンセリング2			
		⑦	利用者への指導と対応、施設運営や募集についての補助1			
		⑧	利用者への指導と対応、施設運営や募集についての補助2			
		⑨	利用者への指導と対応、プログラムメニュー作成と実施1			
		⑩	利用者への指導と対応、プログラムメニュー作成と実施2			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	職場実習	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	57	
3	授 業 時 数	90時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	各個人の希望施設にて、トレーナーや健康づくり指導者として2週間で90時間の職場実習を行う。その中で、施設運営や管理、カウンセリング、プログラムメニューのデザイン、運動指導を学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	施設管理の運営方法を学ぶ。クライアントとのカウンセリングを行い、その情報を基にプログラムを作成し、実行する。各施設で実際に運動指導やマシン指導・フリーウエイトの指導を行う。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション、施設の使用方法和注意事項、避難経路・救急時の備品確認			
		②	安全管理・マナー全般・トレーニング機器の使用方法について1			
		③	安全管理・マナー全般・トレーニング機器の使用方法について2			
		④	安全管理・マナー全般・トレーニング機器の使用方法について3			
		⑤	利用者への対応とカウンセリング1			
		⑥	利用者への対応とカウンセリング2			
		⑦	利用者への指導と対応、施設運営や募集についての補助1			
		⑧	利用者への指導と対応、施設運営や募集についての補助2			
		⑨	利用者への指導と対応、プログラムメニュー作成と実施1			
		⑩	利用者への指導と対応、プログラムメニュー作成と実施2			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
		⑭				
		⑮				
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	特別教養講座	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	58	
3	授 業 時 数	30時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES	所	属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	スポーツ関連分野での様々なボランティアを通して、スポーツ産業に関わる職業理解を深める。				
14	科 目 の 到 達 目 標	スポーツハイブリッド産業、プロスポーツの運営方法について理解できる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	スポーツの「する」「みる」「ささえる」			
		③	プロスポーツの運営			
		④	プロスポーツ実習(バスケットボール)1			
		⑤	プロスポーツ実習(バスケットボール)2			
		⑥	プロスポーツ実習(バスケットボール)3			
		⑦	プロスポーツ実習(バスケットボール)4			
		⑧	プロバスケットボールのトレーナーの役割			
		⑨	プロサッカーの運営			
		⑩	プロスポーツ実習(サッカー)1			
		⑪	プロスポーツ実習(サッカー)2			
		⑫	プロスポーツ実習(サッカー)3			
		⑬	プロスポーツ実習(サッカー)4			
		⑭	プロサッカーのトレーナーの役割			
		⑮	まとめ			
18	参 考 書					

1	課 程	社会福祉課程	5	科 目 名	卒業研究	
2	学 科	健康スポーツ科	6	科 目 番 号	59	
3	授 業 時 数	60時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	末松 大喜	9	授 業 形 態	実習
		資 格	修士(体育科学) JAAF公認陸上競技ジュニアコーチ CSCS NASM-CES		所 属	専修学校熊本YMCA学院
		実 務 経 験	スポーツインストラクター7年、大学講師・非常勤講師10年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	スポーツ関連分野での様々なクライアントにおける体力・運動能力を分析することを可能にするため、測定計画立案及び実施、運動指導計画立案及び実践、データ採集、分析、発表等を通して総合的・実践的な知識を身につける。				
14	科 目 の 到 達 目 標	トレーニングを戦略的に実施し、データの収集、分析、理解し、適切な文献に基づいて記述、発表ができる。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: karoujite認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション、発表に向けて			
		②	測定・運動指導実践およびデータ採集・整理1			
		③	測定・運動指導実践およびデータ採集・整理2			
		④	測定・運動指導実践およびデータ採集・整理3			
		⑤	測定・運動指導実践およびデータ採集・整理4			
		⑥	測定・運動指導実践およびデータ採集・整理5			
		⑦	測定・運動指導実践およびデータ採集・整理6			
		⑧	文研研究とデータ分析1			
		⑨	文研研究とデータ分析2			
		⑩	文研研究とデータ分析3			
		⑪	文研研究とデータ分析4			
		⑫	発表準備1			
		⑬	発表準備2			
		⑭	発表準備3			
		⑮	研究発表会および最終評価			
18	参 考 書					